



第 36 回（平成 21 年 4 月 8 日）定例会の研究発表要旨

手稲の自然と人を描いた

「画家大月源二・富樫正雄」とのおもいで

手稲前田 水落恒彦会員



大月は明治 37 年函館生まれ。小樽に移り稲穂小では「全甲」の優等生。庁立小樽中時代、洋画研究所で後に同志となる小林多喜二（小樽商業生）と共に絵を学ぶ（小林は再評価されている「蟹工船」の作家）。有島武郎作「生まれ出づる悩み」に感動し画家を志す。東京美術学校に学び同期に小磯良平、猪熊弦一郎らの巨匠がいた。（小林は小樽高商へ）ドイツのニーチェ哲学、ダダイズム芸術運動に共感。前衛的芸術集団「赤道社」結成に参加。昭和 3 年頃盟友小林の作品挿絵も描く。昭和 27 年「北海道生活者集団」を結成。同 29 年 50 歳で手稲小学校近くへ移住（澤本会員によると仁木町からの由）。絶筆はスキーヤーと自然を描く「冬の手稲山麓」など多くの作品を残し昭和 46 年 67 歳で逝く。（代表作では戦前の「告別」。戦後の日展特選「三河

の草丘と仔牛達」が有名であった。）

富樫は大正 2 年小樽の大きな商家生まれ。12 歳で油絵入門。小樽市立中 2 年で「道展入選」。昭和 7 年東京美術学校に学ぶが 2 年中退。戦前本道経済・貿易の中心地小樽で描く。当時札幌より小樽が画家の拠点で画商も金持ちも多く展覧会が盛んであった。中学時代英語の恩師は文学者伊藤整（小樽高商卒）で同期の親友に井尻正二（地質学、北大教授）吉田秀和（音楽評論家）上光正治（上光証券創立者）らがいる。昭和 34 年手稲山麓の富丘へ移住（現在アトリエは富丘 2 条 7 丁目）「3 月のサンタルベツ川」「ポプラの手稲」「二月の窓辺（富丘）から」など水ぼうしも含め手稲の四季と北大構内の風景も描く。平成 2 年 77 歳で絶筆「冬鳥」の大作を残し逝く。（代表作に「春近い手稲山麓」小樽港の働く人を描く「塩かつぎ」など。北大のニレの木立も多く「ニレの画家」とも呼ばれた。）

個性的な両画家は近くに住み親しく、よく激しい「口論」をし合う仲だった（澤本説）。又水落会員は「なぜ息子を画家にしないんだ！」と、よくせめられ閉口したという。

今日 4 月 8 日は花祭り釈迦の誕生日にちなんで語れば、その生地はネパール地域のヒマラヤ山脈、又水落会員の故郷樺太の鈴谷山脈、終の住み家手稲山の自然風景に太陽の西陽が輝くとき西方浄土の安らかな世界が目と心に浮かぶという。恐らく両画家が手稲の自然と人に惹かれたのもそうではなかったか。絵筆の大月、富樫も文筆の小林も目と心に映ったように真実を描いた人だと思ふ。特に大月はロシアの古典的絵画と革命後のソ連社会主義リアリズム絵画に感動したが戦後のソ連の余りのひどさに反撃しつつも自分の芸術の拠り所を憂えソ連とロシア芸術の間で深く悩んでいた。フランスの巨匠ピカソが悩みつゝ描いた作品と心境のように。そうして両画家が最後に辿り着いた絶筆が共に手稲特有の大自然と人の風景であり、それが画風に反映した目と心に感じた真実としての美しい安らぎではなかったか。大自然の反映が秀れた宗教や芸術を生み育ててきたのだと思ふと語った。その上で自分の幼時のエピソードや絵かきは「だらしない人」赤シャツの軟派だとの先人観の誤りや「ピカソの絵の見方」も 2 人から教わったものと結んだ。

そうして「百聞は一見に如かず」と両画家の作品集、菊池豊美術評論も持参し供覧した。

[文責：野村]

次回の予定

次回（6 月 10 日）は、元札幌市滝野自然学園園長皆川國男氏の講演「手稲の自然（稲穂ひだまり公園等）」と三国勲会員の研究発表「手稲鉦山周辺で見聞きしたり、体験したこと」を予定しております。

定期総会開催

4月8日には、定例会と併せて定期総会が行われました。今年度は、議題の審議に先立ち「手稲ものしり博士」の表彰式が行われ、16名の方々に証書が授与されました。

議事は、平成20年度の事業報告、収支決算報告、平成21年度の事業計画、役員選任などの案件が可決されました。ここでは、月例研究会の予定と役員名簿を記すこととし、その他については、「定期総会議案書」をご覧ください。



◆ 月例研究会予定

- | | | | |
|------|-------|---|----------------------------|
| 第39回 | 7/8 | 「札幌の教育文化」～上手稲の誇る時習館など～ | 元札幌市資料館郷土史相談員 工藤一廣氏 |
| 第40回 | 8/12 | 「14歳で拓北農兵隊の一員として」曙の地に入植
「琴似から見た手稲」～琴似屯田兵4代目～ | 虻田花和 牧場経営 田中篤之助氏
條野雄一会員 |
| 第41回 | 9/9 | 「手稲村、戦後の青年団活動」 | 山本淳一氏 |
| 第42回 | 10/14 | 「手稲山口、バッタ塚」
「山口村の由来」 | 加藤利昭会員
館岡良三会員 |
| 第43回 | 11/11 | ★文化月間につき広く区民へも公開
「蝦夷地から北海道（手稲村）へ～開拓期、歴史的記録の紹介～」（仮題）
「手稲区歴史ホームページ」上映 | 元北海道教育大学教授 鈴江英一氏 |
| 第44回 | 12/9 | 「開拓の村、ボランティア（ガイド）活動をとおして」
「手稲鉦山グループの研究成果報告」 | 濱埜静子会員
鈴木事務局長 |
| 第45回 | 1/13 | 「地域の古建築」～時計台、旧簾舞通行屋、札幌控訴院等に関わって～
「手稲に移り住んで30年」 | 札幌市時計台次長 門谷陽氏
立花顕次会員 |
| 第46回 | 2/10 | 「手稲神社のあゆみと年中行事 など」
「明治18年山口県移民樽川村へ移住～入植から5代目～」 | 手稲神社宮司 山口雄之氏
釣本峰雄会員 |
| 第47回 | 3/10 | 「北海道開拓期の暮らし～開拓の村の建造物をとおして～」
「平成21年度を振り返って」～事業、予算、その他～ | 北海道開拓の村学芸員 氏家等氏
事務局 |

◆ 役員

顧問	小山高史	(前手稲区長)
顧問	小林幸男	(前会長)
相談役	野村武雄	
会長	國井和夫	
副会長	茂内義雄	研修担当、研究部長兼務
副会長	伊澤敏幸	期成会担当、事務局次長・研究部兼務
副会長	一ノ宮博昭	渉外担当、研究部兼務
事務局長	鈴木清士	総務部
理事	濱埜静子	研究部
理事	景浦強	研究部
理事	上仙学	総務部長
理事	小田真二	広報部長
理事	館岡良三	総務部・会計
理事	高木秀子	広報部
理事	立花顕次	広報部
理事	佐々木光男	総務部
理事	阿保肇雄	研究部
監事	加藤利昭	
監事	竹内伸仁	

